



五十年目の同窓会―南方特別留学生

被爆五十周年を機に、広島高師や広島文理大で学んだ東南アジアの元「南方特別留学生」が、八月六日、広島市で初の同窓会を開いた。

当時広島在住の南方特別留学生は九名で、元安川町の興南寮に寄宿していたが、八月六日、九名のうちの一名を除いて全員が原爆に遭い、二名が被爆死するという悲劇に見舞われた。

一行は、ブルネイ王国前首相のペンギラ・ユソフ氏など九名で、八月四日に広島入りし、広島市長を表敬訪問した後、翌八月五日には市民参加のシンポジウムに参加

し、夜には南方特別留学生歓迎会主催の歓迎パーティーに出席した。

八月六日、原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式に参列、興南寮跡で留学時代の思い出を語り合った後、母校である本学の学長表敬訪問があった。本学の原爆追悼碑に黙とうを捧げた後、光禅寺での故ニック・ユソフ氏の墓前供養に出席した。午後六時から、学長主催の夕食会が催された。

五十年ぶりの同窓会を終えた一行は、八月七日、被爆後京都で亡くなった故サイド・オマール氏の墓参りなどで京都に向けて出した。

本部跡地利用計画案の「中間報告」

本部跡地利用については、広島大学跡地利用研究協議会（会長＝平岡 敬）の決定に基づき、広島大学本部跡地利用計画策定調査検討委員会（委員長＝杉恵頼寧）で利用計画案が練られてきた。

今年二月の「検討委員会」中間報告によると、「広島大学本部跡地は、新たな時代に向けて発展する。人間賛歌都市ひろしまを象徴する顔として、その具体化に対して県内外から熱い期待が寄せられている」としたうえで、「当跡地の立地条件や歴史性、さらには市内の他のプロジェクトとの機能分担等を総合的に考慮した上で、広大本部跡地に導入が考えられる機能の中で、現時点において最良であると考えられるものを、遊創文化の発信拠点」というコンセプトのもとに整理し、中間報告案としてとりまとめたものである」となっている。具体的な跡地のイメージとしては上のとおりとなっている。

機器分析センター見学会開催

機器分析センターでは、六月二十一日の移転記念式典および祝賀会に引き続いて、七月十三日午後、学内教官、職員、学生を対象にしたオープンハウス（施設見学会）を開催した。

当日は、超高分解能核磁気共鳴装置など十三種の共同利用分析機器類が公開され、学内の教職員や学生約七十名が機器分析センターを訪れた。

それぞれの機器の前では、担当者によって機器の概要や利用に関する説明ならびに操作の実演が行われた。分析機器の利用方法等について終始熱心な質疑応答や情報交換をする姿が見られ、盛會裡に閉会した。

なお、機器分析センターの紹介と利用案内は、広島大学のWWWサーバで機器分析センターの項目を選択することによっても見ることが出来る。

第四回「研究者のための実用ガラス細工実習講座」開催される

理学部特殊加工技術開発室ガラス素材応用部門では、平成四年度から毎年七月中旬に、教官、院生、留学生を対象として初級、中級程度のガラス細工の実習を行っている。

この実習講座は、ガラス細工の基本的指導や各教室のニーズに合った指導を行うことと、さらに、それをおしてガラスの特長を体験し、研究室での安全性を高めることを目的としている。

今回は理学部、工学部、総合科学部、生物生産学部、教育学部からの参加希望が多数あり、予定日を延長して実施した。この講座は、今や全学的な実習講座になってきている。

総合情報処理センター、次期機種は？

総合情報処理センターでは、来年三月に導入予定の次期機種種の仕様策定を昨年五月から始め、現在、開札まですすんでいる。

次期計算機システムは、教育研究情報処理、演算サーバ及び汎用電子計算機の三つのシステムに大別される。

特に、演算サーバシステムのユーザエンタリマシンを広島大学のホームマシンとして位置づけ、本学全構成員をユーザ登録し、学内ネットワークであるINETに接続されるどのパソコンなどからでも自由に電子メール、ネットニュースさらにWWWなどが利用できるようにする。

その際、個人の情報処理（ワープロなど）と個人間の情報処理（電子メールなどの情報交換や事務処理など）を行ううえで、パソコンなどのステーションとサーバの違いをあまり意識することなく自由に使えるものにする。

また、このシステムだけでなく、他の計算機システムも有効に使えるシステムを構築する。

以下、各システムを簡単に紹介する。

- ①教育研究情報処理システムは、教育研究用ステーションと管理用サーバからなり、一般の教育・研究、情報処理教育を行う。特に情報処理教育については、マルチメディア情報処理教育などの高度な情報処理教育に対応できるものを配備する。教育研究用ステーションは、使いやすくセキュリティの高い、X-Windowを導入し、個人の情報処理と個人間の情報処理が有機的に行えるものにする。管理用サーバは、ファイル、電子メール及びプリンタの各サーバの機能を持つものにし、このサーバにも本学の全構成員を登録する。